

ノルウェー船協前会長の表敬訪問について

3月25日、ノルウェー船主協会のハラルド・フォトランド前会長（オドフェル CEO）が来日した機会を捉え、イグルム駐日ノルウェー大使ご同席の下、長澤会長、加藤副会長および篠原理事長と都内で会談しました。

注：フォトランド氏は3月17日開催のノルウェー船主協会年次総会で会長職を退任、その後任にはホーグオートライナーズCEOのアンドレアス・エンガー氏が就任。

同会談の中で、長澤会長は、フォトランド前会長の来日に心から歓迎の意を表明するとともに、日本・ノルウェー両船主協会は同じ主要な海洋国家の船主団体として、国際海運会議所（ICS）の場や直接対話を通じて相互理解の深化や協力関係を強化しており、両協会の良い関係の更なる発展を期待していると述べました。これに対し、フォトランド前会長からは、自身が先日の年次総会で会長職から退任したものの、現在も欧州共同体船主協会（ECSCA）の理事を務めており、引き続きノルウェー船主協会の活動に深く関与していくことや、日本・ノルウェー両国が引き続き協働することの重要性等の発言がありました。また、ペルシャ湾内で足止めされている船員や船舶の安全確保や、国際海運におけるGHGネットゼロに向けた国際規制の早期採択の必要性についても意見交換を行いました。

さらに、ノルウェー船主協会関係者が今年6月に来日し、当協会との直接対話が予定されていることにも触れ、国際情勢が不透明となる中、両船主協会が航行安全や環境保護といった諸問題について今後も協力して対応していくことを再確認する貴重な機会となるとの見解で一致しました。

当協会は、今後とも駐日ノルウェー大使館をはじめとした関係当局や同国船主協会と協力し、円滑な国際物流の確保や外航海運の脱炭素化を図るべく活動してまいります。



左から、ベルグ・シマーマクトアバイザー、フォトランド前会長、イグルム駐日大使、長澤会長、加藤副会長、篠原理事長